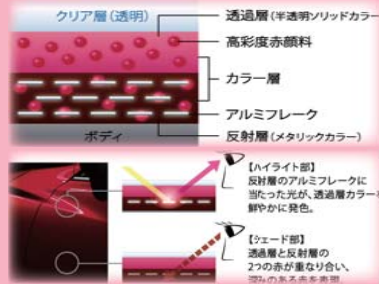


# マツダ 41V ソウルレッドプレミアムメタリック

マツダ41V ソウルレッドプレミアムメタリックは、個性的な人気ある塗色の1つですが自動車補修においては、極めて特殊で難易度の高いカラーとして良く問い合わせを頂く塗色です。人気あるカラーだけに入庫頻度も多く、このパンフレットに掲載する応用アドバイスが少しでも参考になればと思います。



※マツダ株式会社様の利用合意を受けているので、他への転載、転用を一切禁ずる。



◆マツダ41Vソウルレッドプレミアムメタリックは3CP仕様での補修作業となります。

調色についてのアドバイスは下記の通りです。



原色No	原色名	配合比率
0493	TCパールコンク3C	54
0778	M*コスモ荒目	114
0473	ゴールドブラウン	77
0690	ディーブマルーン	270
0683	スレンレッド	155
1790	Aライナー	330

原色No	原色名	配合比率
0493	TCパールコンク3C	110
0778	M*コスモ荒目	160
0479	スペシャルゴールド	115
0625	ロブスターレッド	55
0683	スレンレッド	535
1732	シロックス	25

原色No	原色名	配合比率
0473	ゴールドブラウン	22
0683	スレンレッド	59
1731	ミキシングクリヤー	819
1790	Aライナー	10

原色No	原色名	配合比率
0479	スペシャルゴールド	19
0683	スレンレッド	71
1731	ミキシングクリヤー	910

実車の下色ベースは淡いピンク味ある色①ですが、ボカシ塗装の場合には、下色を塗色自身に近い色相②(共色)合わせて行う方がスムーズなボカシ作業が行えます。



※カラー工房等については、共色データをメインとしてご提供しています。実車においても下色ベースには淡いピンク味ある色やオレンジ味ある共色のものも存在するようです。  
※調色のテストピース作成時には、希釈設定や塗装回数など実際の塗装と必ず同じ条件にしましょう。

## ◆標準ボカシ塗装仕様

このマツダ41Vの補修については、調色精度の追求よりもボカシ塗装で塗装回数を考慮した方法がスムーズに仕上げる事が出来ます。



※下地のプラサフは2液を用い、ウルトラサフCマルチグレーがお勧めです。

工程間ではしっかりと脱脂作業を行い、エアブローをしながらタッククロスで清掃しましょう。



①プラサフ部分をP800耐水ペーパーまたはP600空研ぎペーパーにてエアール具を用いて均一に研磨、その周辺旧塗膜をP2000で空研ぎします。



②カラー下色ベースとカラークリヤーベースについては、共色相合わせの配合を用いて補修作業を行います。



まずカラー下色ベースは

アクロベース 100 に対して強化剤5 アクロベースシンナー 60%希釈

ハイアートネクスト 100 に対して強化剤5 ハイアートネクストブレンダー 50%希釈

際のザラツキに注意しながらカラーベースを馴染ませる感じでボカシ塗装します。塗り込み過ぎはNG。カラーベース塗装時点でしっかりと旧塗膜にボケている事が理想です。(希釈剤の番号選定は、1ランク遅めを選定してください)

※ボカシ際のザラツキが出ないように、予めボカシ剤を薄く塗装すると容易に塗装できます。



※カラー下色ベースからカラークリヤーベースまでのインターバルは20分

③カラークリヤーベースは

アクロベース 100 に対して強化剤5 アクロベースシンナー 100%希釈

ハイアートネクスト 100 に対して強化剤5 ハイアートネクストブレンダー 50%希釈

ボカシ部に軽くボカシ剤を塗装します。

周りの色調に注意しながら4回塗装で仕上げます。

1回目→カラーベース部より5cmほど外から内に向けてミディアムコート

2回目→カラーベース部より内側で色決め

3回目→カラーベース部よりやや外側での色決め

4回目→カラーベース部より広めの範囲で外から内に向けてコントロールコート

※戻しムラに注意し、ガン送りを早くして塗り重ねてツヤの繋がりを確認しましょう。

カラークリヤーベースの塗装間隔が早すぎて戻しムラになり易いので注意してください。

※調色時のテストピースとの確認を必ず行いましょう。



※カラークリヤーベースからクリヤー塗装までのインターバルは20分



④クリヤー塗装

アクセル201ピーナスクリヤー 100 に対してマルチハードナー 50 ウレタンエコブレンダー 5~25%希釈

強制乾燥までのセッティング10分以上

予備乾燥 (ブース内温度+10℃) × 10分 ~ 強制乾燥 60℃ × 30分以上

